

# 県医活動報告

## 大学医学部・医学会女性医師支援担当者連絡会

日 時：平成28年12月2日(金) 14時～16時  
 場 所：日本医師会館1階大講堂  
 報 告：大分県医師会男女共同参画委員会委員長  
 谷口 邦子

1. 日本医師会の女性医師支援に関する取り組みについて（今村定臣常任理事）  
 女性医師が30%になり，女性医師バンクでも487件の就業が成立した。  
 医学生，研修医等をサポートするための会も76回開催された。  
 平成25年からは大学，平成26年からは医学会が参加している。

### 2. 事例発表

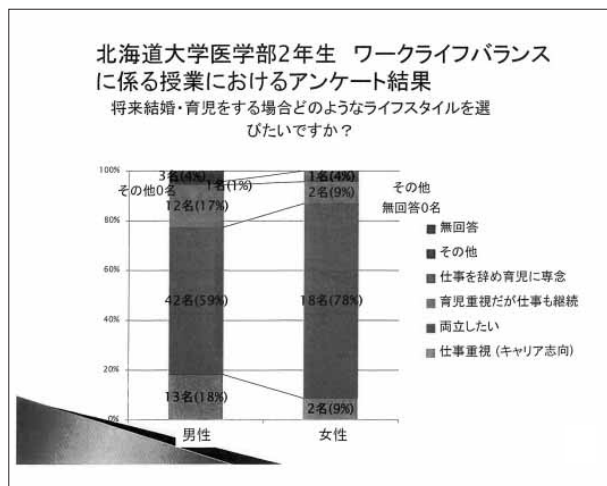
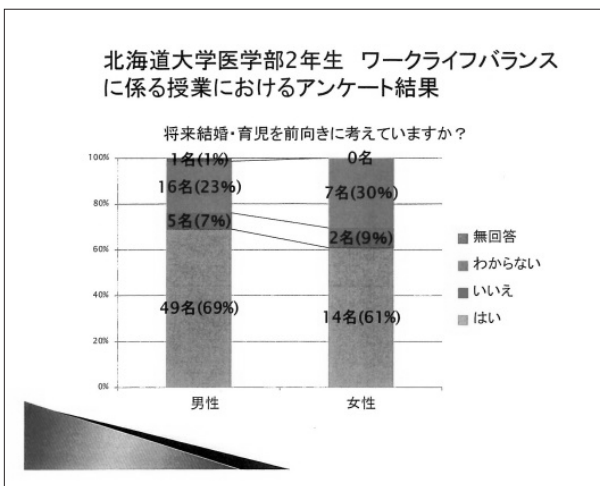
#### ① 大学の取り組み

##### 1) 北海道大学の取り組み

北海道大学病院医師へのアンケートから「病児保育」の必要性が認められた。

現在は「病後児保育」は実施しているが，「病児保育」を実施することで，さらに女性医師の欠勤を減らせると思う。

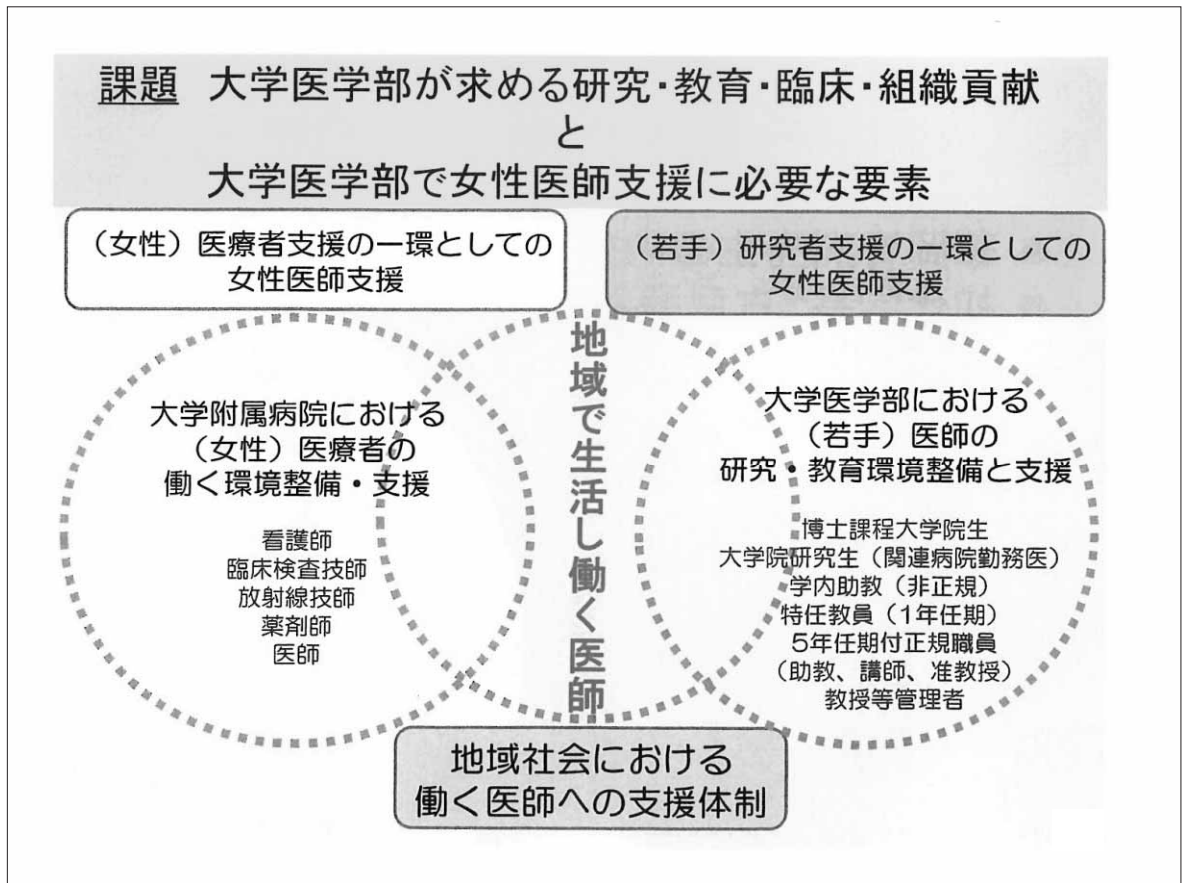
北海道大学医学部生へのアンケート結果から見た次世代のワークライフバランスでは男性も育児休暇を希望し，男女ともに仕事と家庭のバランスを重視する傾向がある。



2) 和歌山県立医科大学の取り組み

県立医科大として地域医療枠（月15万貸与）と県民医療枠（貸与なし）を設けている。地域枠には9年間の義務がある。

若手研修者支援の一環としても女性医師支援が必要である。



② 学会の取り組み

1) 日本産科婦人科学会の取り組み

産婦人科では、女性医師が急速に増加していて、50歳以下では女性が50%である。

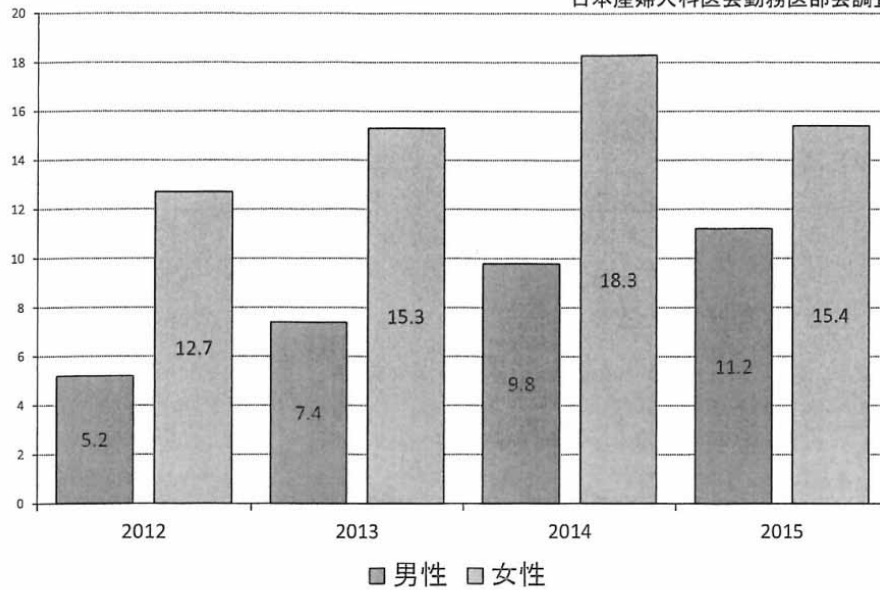
また常勤先のないフリーの医師が増加しているが、年齢分布は男女で異なり、女性では半数以上を30代が占める。この年代の離職対策を立てなければ極めて非効率である。

なるべく早く職場に戻すことや、女性の指導者を育成することが必要である。

家庭内での男女共同参画も求められている。

### 常勤先のない医師の頻度(%)

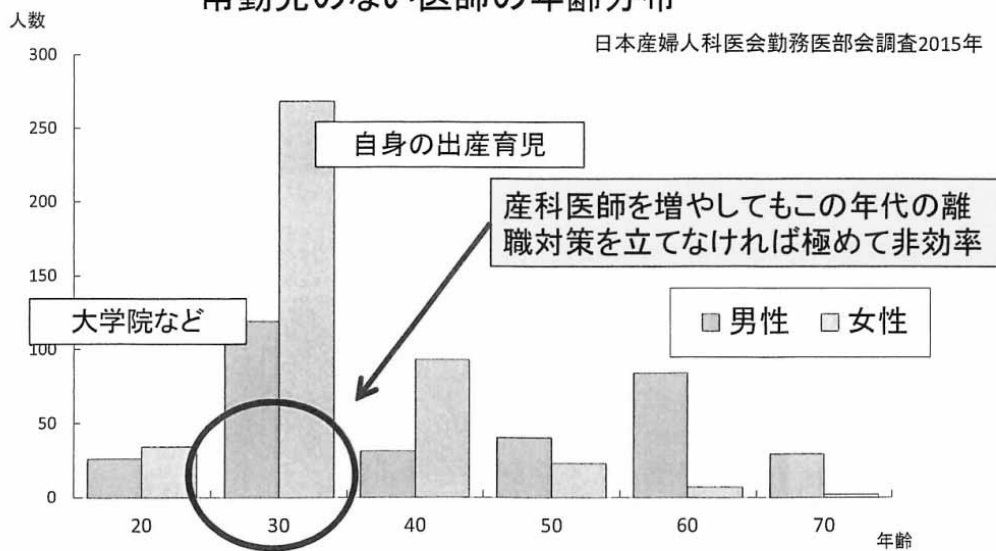
日本産婦人科医会勤務医部会調査2015年



女性のもう一つの問題は、常勤先のないフリーの医師の増加である。今後、フリーの医師の活用法が課題となる。

### 常勤先のない医師の年齢分布

日本産婦人科医会勤務医部会調査2015年



フリーの医師の年齢分布は男女でことなり、女性では半数以上を30歳代が占める。

2) 日本耳鼻咽喉科学会の取り組み

耳鼻咽喉科も男性医師が減少している。休職中の医師の運用はこれからである。復職支援を実施するべくアンケート調査をしたが、受け入れ可能な施設が93.4%あった。

耳鼻咽喉科専門研修基幹施設に対する復職支援に関するアンケート調査結果

対象:耳鼻咽喉科臨床研修基幹施設 76/88施設 (回答率 86.4%)

復職支援研修の受け入れ可能な施設: 76施設中71施設(93.4%)

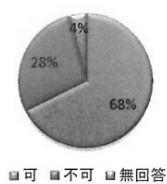
		可能な施設 (%)
専門研修連携施設での受け入れ		68
復職支援専門部門の設置		49
研修内容	手術(手洗いあり)	99
	手術(手洗いなし)	93
	外来	94
	特殊検査	78
	カンファランス	99
日本耳鼻咽喉科学会HPに連絡先記載の可否		89
		(71施設中)

耳鼻咽喉科専門研修基幹施設に対する復職支援に関するアンケート調査結果

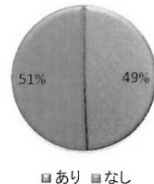
対象:耳鼻咽喉科臨床研修基幹施設 76/88施設 (回答率 86.4%)

復職支援研修の受け入れ可能な施設: 76施設中71施設(93.4%)

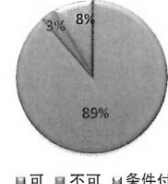
専門研修連携施設での受け入れ



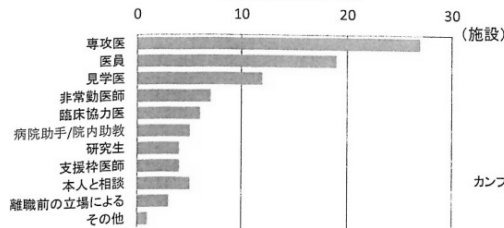
復職支援専門部門の設置



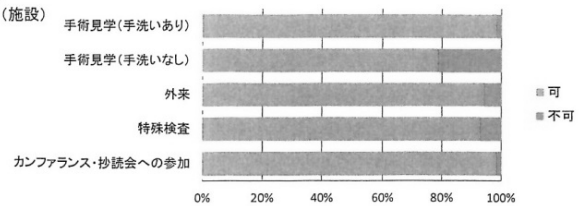
学会HPへ連絡先掲載可否



研修の地位・立場



可能な研修内容



## フロアからの意見

- (脳外科) 地域枠に9年の義務があるが、産休・育休はどうなるのか？  
6か月は目をつぶるが、後にずれることが多い。  
病院での対応にもよる。  
具体的には決まっていない。(時短など)
- (和歌山) 地域枠は地域医療枠(月15万貸与、自治医大と同じ)と、県民医療枠(貸与なし、誓約書、卒後3年目で専門医や派遣医)に分かれている。
- (秋田) 医療機関間のメーリングリストを希望する。(昨年も希望した。)
- (奈良) 正規教員になることや研究支援が必要である。  
女性に特化したもの  
ファミリーサポート  
学内助教から助教へ(学外に出る)
- (久留米) 男性のワークバランスが必要である。
- (小児科) 専門医制度が女性医師の事情を考慮しているのか疑問である。  
専門医制度は時間がかかる  
サブスペシリティも必要である  
シフト  
複数主治医制  
オフ(当直後)  
“ナイトデューティ”  
“院内保育所”  
時短  
男女とも6割が当直なしであることが問題である。
- (産婦人科) 分娩・手術に戻るのに時間がかかる  
後期研修と同じである。
- (鳥取) キャリアアップに必要なことは上司・管理者への働きかけである。
- (産婦人科) 学会で管理者へのシンポジウムを行っている。